

## 世界ジオパークへの決意と課題 -室戸ジオパークの例-

## Muroto Geopark -Our determination to pursue GGN membership and areas needing improvement

岡田 哲也<sup>1\*</sup>, 柴田 伊廣<sup>1</sup>, 田中 圭一<sup>1</sup>

Okada Tetsuya<sup>1\*</sup>, Tadahiro Shibata<sup>1</sup>, Tanaka Keiichi<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 室戸ジオパーク推進協議会

<sup>1</sup> Muroto Geopark Committee

### 1. はじめに

室戸は、この惑星・地球における最も活動的な縁辺域のひとつである。繰り返し巨大地震が大地を揺さぶり、大津波が沿岸を飲み込み、毎年のように台風が吹き荒れる。それでも太平洋に突き出た室戸半島には、豊かで文化的な生活が千年以上にわたって営まれ続けている。室戸ジオパークは、「海と陸が出会い、新しい大地が誕生する最前線」をコンセプトとして、地形・地質遺産、厳しい自然環境、人々の生き様などの関わりを見事に現している。そして、これらの資源を教育、防災、研究、そしてジオツーリズムなどに活用してきた。今回は、世界ジオパーク加盟の国内候補地としての決意と課題について紹介し、最近の活動について報告する。

### 2. ジオパーク活動の目的

私達は三つの目的をもってジオパーク活動の発展を推進している。

一つ目は、他の世界ジオパークと連携して、室戸の地形・地質遺産の地球科学的な価値を世界中の人々に伝えることである。地球上で起こる現象の理解には、複数の地域を比較することが必須である。GGNに加盟するジオパークの多くが、ヨーロッパや中国などのように安定した大陸にあり、変動帯に特徴的な地形・地質の多様性を理解できるジオパークはまだ少ない。室戸ジオパークは、現在も進行する沈み込み帯における変動を理解できるだけでなく、巨大地震と津波に襲われることが予想されている場所である。この地形・地質的特徴は、GGNに地形・地質遺産の多様性をもたらし、大地の変動によって人々の生活の場が形成されることを世界中に伝えることができる。

二つ目は、GGN加盟を通過点として市民同士のネットワークを強化することである。地域の資源を今一度見つめ直して、様々な立場の人々のネットワークを構築し、情報を共有しつづつ力を出し合っていくことが必要だと考えている。市民が自分達の住む地域に関心、好奇心、そして誇りを持ち、市民の活動の活性化を図りたい。

三つ目は、地形・地質遺産を持つ他地域への波及効果である。世界中には、人口の減少や産業の活力の低下に苦しみながらも、ジオパークに適した資源のある地域が多く存在している。人口減少や経済的な問題を少なからず抱える室戸市が、地形・地質遺産の保護と活用を両立させて、地域の持続的な発展につなげることができれば、日本だけでなく世界中の類似した環境にある地域に、希望を与えることができると考えている。

### 3. 課題を乗り越える第一歩としての教育

室戸ジオパークは2008年に日本ジオパークネットワークに加盟し、2010年に世界ジオパークネットワーク加盟への国内候補地に決定した。しかしながら、ここに至るまでに、2回の国内候補地落選を経ている。ジオツーリズムを浸透させる体制が未熟であったことが落選の主な原因であると私たちは分析している。さらに、拠点施設や看板などの整備、市民運動、旅行者の周遊性などの多くの課題を抱えている。私たちは、これらの課題を乗り越えるために教育に係わる取り組みを推進してきた。それは、教育によって、自然科学の研究や教育に関わる人材、国際的な感覚を持つ人材、コミュニケーション能力の高い人材、地元の経済の持続的な発展に貢献できる人材などが育成され、ジオパーク活動を支える市民や研究者が増えることに期待しているからだ。

2010年8月に室戸市内で開催した「第11回地震火山こどもサマースクール」は市民のジオパークへの価値観を変化させた。サマースクールでは、子ども達が二日間に渡って、研究者と一緒に屋内外で実験やクイズに参加し、最後に発見できたことやアイデアを発表した。そして、参加した子ども達は、「室戸こどもジオパークアドバイザー」に就任した。これらを現場で見守った市民はもちろん、報道を通じて知った方の関心が急激に増した。

サマースクール以降、学校などからジオパークに関する出前授業や問い合わせが増えた。さらに、学校の教員も独自の手法でジオパーク学習を始めた。出前授業での学習の成果をオブジェ、絵画、劇、俳句、音楽などの創作活動へ反映させている。さらに、看板やパンフレットは、こども達の目線の内容で新設・交換されている。

#### 4.まとめ

このように、室戸ジオパークは教育的なイベントをきっかけとして、市民がジオパークに大きな関心を寄せるようになった。さらに、正確にジオパークを知って人に伝えたいと望む市民も確実に増えてきている。今後、市民主体となる活動をジオパーク推進協議会が支援していくことで、観光や産業の分野との連携が強くなっていくだろう。そして、私たちがかけ目標の実現に近づいていくと期待する。

キーワード: 室戸, ジオパーク, 世界ジオパーク

Keywords: Muroto, Geopark, Global Geopark Networks